

平成27年度 土浦日本大学中等教育学校自己評価票

本校の目指す学校像	<p>土浦日本大学学園建学の精神に基づき自主自立の気風を養い、中等普通教育及び高等普通教育並びに専門教育を一貫して教育することによって世界の平和と人類の福祉に寄与しうる人材の育成をはかり、社会に貢献することを目的とする。目的実現のため次の目標を掲げるものとする。</p> <p>(1) 豊かな語学力を習得し、世界の人々と対話のできる日本人を目指します (2) 自分たちを育てた文化や社会を理解し日本の素晴らしさを世界に発信します (3) 複雑化した現代社会を生き抜くために、教養を磨きさらに得意分野を生かした高度な専門知識を身につけます (4) 読書、絵画、音楽等を通じて芸術や文化を愛し理解する心を磨き、みずみずしい感性を養います (5) さまざまな危機に直面する地球環境をつねに心の片隅において行動のできる人、地球にやさしい人を目指します</p>
-----------	---

本校の特長及び課題	<p>平成27年度学校教育方針『国際社会のリーダーとして、世界人類の平和と、他者を思いやるやさしい心を有する、有為な人材を育成すると共に、学園からいじめを撲滅する』ために以下の3点を基本方針に据える。</p> <p>1. それぞれの分野で、リーダーとして、たくましく活動でき、他者を思いやるやさしい心のある『人間力』の育成 2. 夢を実現する確かな『学力』の育成 3. 世界に向かって発信できる『国際力』の育成 これらの方針を実現するための実践項目として、次の4点を挙げる。</p> <p>①基本的な生活習慣を全学年、全クラスで確立 ②足並みの揃った生活指導の推進（『いじめ』の撲滅） ③「学習活動」を軸にした進路指導を強力に展開 ④日常の教育活動が生徒募集に直結することを念頭に取り組む</p> <p>また、今年度からは、いじめ対策室及び日本大学到達度テスト対策室を設け、新たな取り組みを行うと共に、昨年度から継続し朝課外、夜課外を実施していく。</p>
-----------	--

平成27年度の実績結果

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画の立案と調整 ・時間割管理 	<p>年間行事については、今年度から変更となった基礎学力到達度テスト（旧「日統一」）の影響を受け大きく変更したものの大きな混乱なく運営することが出来た。</p>	

<p>教育活動 (教務)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種帳簿管理 ・テストの運用 ・課外の計画運用 ・ネット教材の配信 ・教員研修の計画実施 ・学校評価の実施 ・学校日誌の作成 	<p>時間割課外授業などの運営においても、学習指導部と一体となり適切な運営を行うことが出来た。</p> <p>課外については、対象学年及び講座数を拡大し、ほぼすべての生徒が受講している状況にある。</p> <p>各種帳簿の管理及び会議等の運営など教務事務の根幹においては適切に法令を遵守した管理運営がなされている。</p>	<p>A</p>
<p>学校生活 への配慮 (生徒指導)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の作成と実践 ・各種届出の運用 ・清掃分担の計画運用 ・いじめ対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活実態調査等を踏まえ、いじめ事案の発生を予防できた。 ・各学年の生活指導部担当者の意思統一を図ることで、学年間で足並みをそろえた指導ができた。 ・通学路の安全指導を行うことで、事故防止ができた。 ・電車内のマナーは、列車添乗指導で一定の成果を出せたが苦情も数件受けた。 ・SNSに関する問題が散見された。 	<p>B</p>

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
<p>生徒会・ 部活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動全般の指導 ・オープンハウスの計画と実施 ・スポーツデイの計画と実施 ・部活動の管理と運営 ・スポーツ大会の計画と実施 ・ボランティア活動の計画と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度より6月実施となった SportsDay では、実施場所の変更、準備時間の削減の中、無事に実施することが出来た。 ・OpenHouse では作品の展示などにおいて、文化部の発表が人気が高く、レゴロボットはじめ鉄道研究会、写真、天文の各種サークルが活躍した。 ・部活動でも運動部だけでなく文化部の活躍があり、中でも囲碁将棋部と科学サークルの活躍は大きかった。 ・例年に引き続き合唱コンクールでは各クラスが一丸となり、素晴らしい発表を行った。 ・今年から選挙権が18歳になることから、生徒会選挙では実際の投票箱や机などを使い、社会科などとも協力した主権者教育の実施の中で選挙が行えるように取り組んだ。 	<p>A</p>
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する各種調査の実施 ・進路講演会の実施計画 ・高大連携の促進活動 ・進路情報の収集分析と公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の情報処理室と連携し、受験大学及び方式を一元管理し、出願関係資料の作成可否データ処理を行っている ・進路講演会では、生徒対象や保護者対象で月1～2回程度実施している。 ・進路情報となる各種模試や推薦入試の過去問題などを pdf 化することで、すべての教員が学習活動に生かせるようにした。 ・CPC を7時半から開室し、毎朝20名近い生徒が自学自習を行う環境を作っている。 	<p>B</p>

	・ 3つの進路実現のための諸活動	・ 今後、高大連携を視野に入れた活動を行っていききたい。	
--	------------------	------------------------------	--

保健・衛生	<ul style="list-style-type: none"> 適切な健康診断の実施 健康管理への配慮 教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康診断については、前年度の後半から学校の先生方と連絡を密にして計画し学校行事として組み込み実施にいたっている。 健康診断を通じて健康寿命を延ばす活動を進めている。 カウンセラーの利用は限られた時間の中でも連携が取れている。今後も利用していない生徒にも利用してもらえるよう周知していききたい。 	B
図書	<ul style="list-style-type: none"> 読書案内の充実 図書館活用率の向上 図書委員活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様蔵書が増加している。 図書委員会では、各学年で取り組んでいるブックレビューカードのデータ化が進んでいる。 新書など読書の推進を行っていくため、全校集会でも発信を行っていききたい。 	B
広報	<ul style="list-style-type: none"> 700名超の受験者と120名の入学者確保 ホームページ管理 本校ネットシステムの管理 寮生への対応 	<ul style="list-style-type: none"> エリア担当3年目として広く且つ数多くの塾を訪問することができた。また、3年目ということもあり多くの担当者が塾の先生方と情報交換を活発に行えるようになってきたと考える。 エリア会議も毎週開くことで各地区の情報伝達を含め連携がうまくいった。 ネットシステムでは情報処理室長の尽力で運営がなされている。 千葉型SATを実施し、面接などでは新たな取り組みを行った。 志願者数で推薦入試59名、千葉SAT入試90名、第1回一般入試189名、茨城SAT入試197名、第2回一般入試189名と昨年度を上回る成果を挙げた。入学者数については102名であり、昨年度を下回ったものの3桁を維持した。 	B

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 教育方針の浸透 会議の活性化 校務分掌機能の円滑化 教員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教育方針の浸透、会議の活性化については問題は無い。 自己評価自体に対してその意義を理解できずに自己改善につながる姿勢が求められる教師が一部存在する。 外部の研修会に参加する教員も出てきたが、今後複数の先生方がこのような研修会に参加することが求められる。 	B

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習については、学習指導担当部署を中心に先生方の献身的な取り組みで課外が充実した。 ・募集活動においては、新たに千葉 SAT を導入し、初年度 90 名の受験者を獲得した。 	
--	--	--	--

庶務	<ul style="list-style-type: none"> ・防災，環境美化の推進 ・保護者と教師の会の充実 ・同窓会組織の運営 ・各儀式の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の鬼怒川水害において緊急連絡の体制を再度検討しなければならなくなった。緊急情報メールの登録数の向上が求められる。 ・保護者と教師の会では大学見学会を行い、好評を頂いた。 ・同窓会では、第二回ホームカミングデーを実施し、昨年を上回る参加者を獲得した。 ・危機管理や各種出張等の報連相をしっかりと行うためにも「業務必携」をより強固なものにしたい。 	A
学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学年クラス目標の浸透と経営総括の共有化 ・学年間連携協力体制の強化 ・保護者との連携強化 ・進路実績の飛躍向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程、後期課程共におおむね年間目標を達成することができた ・前期課程では生徒指導面で苦慮する場面が見られたものの、各教科の連携やイブスタなどの取り組みが活性化している。 ・後期課程では、4学年から朝課外を含め積極的な参加が見られ、参加している生徒には成果も現れ始めている。 ・1年生の教員を中心に、保護者との電話連絡等を蜜にし連携を高めている。 ・進路実績は、3月8日現在、日本大学62名、国立大学8名、最難関私立19名、難関私立22名、海外大学2名という状況であった。 	B

達成 状況 評価 基準	A	取組目標が十分達成された	「よくできている」「できている」割合が90%以上
	B	概ね達成された	「よくできている」「できている」割合が80%以上
	C	課題を多く残している	「よくできている」「できている」割合が70%以上
	D	成果が出ていない	「よくできている」「できている」割合が70%未満